

小学生版

あたらしい児童書 NO. 285 2024. 2. 11

遠軽町図書館
遠軽町大通南4丁目
TEL 42-3632

本が見あたらないときは、かかりの人に聞いてね。予約もできます。新しい本は他にもあります。小初は1・2年、小中は3・4年、小上は5・6年をめやすにしてください。

『ねえねえ、きょうのおはなしは……』

大塚 勇三／再話・訳

・日本の子どもたちに、世界の昔話や創作児童文学を紹介しつつけてきた大塚勇三が、雑誌や単行本で発表したよりすぐりのお話を紹介。グリム童話や北欧の昔話など、全20話を収録する。(3～5、小初)



『かこさとし童話集』 かこ さとし／作・絵

・かこさとしが自ら編み、挿絵を描いた童話集。1は、「おむすび山のカラスちゃん」「かえるのがっこう」「雪だるまと熊どん」「ふとっちょネズミ」など、動物が主人公のお話全29話を収録する。(小初)



『テーマパークのおばけずかん メトロコースター』

齊藤 洋／作

・テーマパークには、こわ～いおばけがいっぱいいます。でも、このお話を読めば、だいじょうぶ! 「十ねんパス」「かんらんしゃのウルフィー」「キャラぬいくん」など、テーマパークのこわいおばけの話全7話を収録。(小初)



『とらまる、山へいく やまの動物病院 2』

なかがわ ちひろ／作・絵

・まちの動物病院で暮らす大きなねこのとらまるは、毎晩先生が眠ると「やまの動物病院」を開いて、山の動物たちの病気やけがを治していた。ある晩、「山へ往診にきてほしい」という知らせが…。 「やまの動物病院」の続きのお話。(小初、小中)



『図書館のぬいぐるみかします』 作／シンシア・ロード

・図書館司書アンの人形だったアイビーは、本のように借りることができる図書館のぬいぐるみ<ブック・フレンド>になった。借りられたくないと思っていたアイビーだが、義理の家族と一緒に図書館を訪れていた女の子に出会い…。(小初、小中)



『パパがしげみになった日』 ヨーケ・ファン・レーウェン／作

・パパは戦争に行つて“しげみ”に変装している。あたしはバスでひとり、となりの国のママのところへ行くことに。「こっち」から「あっち」に行くのは思ったより大変で…。 ちょっととぼけた女の子、トダの視点で語る戦争の物語。(小中)



『ねこもおでかけ』 朽木 祥／作

・小学生の男の子・信ちゃんはある日、公園で捨てねこを拾いました。「トラノスケ」と名付け、家で飼うことになりましたが…。子ねこの秘密をさぐるドキドキな1年間を描く。巻末に「ねことなかよくなる」スペシャル解説付き。(小中)



『あたしデイズ』 いたう みく／作
 ・移動教室が楽しくなるかならないかは、だれと同じ班になるかにかかっている。あたしは、ガッコとコマリと一緒にのつもりだった。でも、「まだ班が決まっていない人は手をあげて」という先生の声に、あたしは小さく手をあげ…。(小中)



『ぼくのなかみはなにでできてるのか』 かさい まり／作
 ・小学4年のはるとは、いつもみんなにからかわれている。「ぼくの中身は、弱虫となき虫でできている」と自分を分解して自信をなくす。だが、母に強く抱きしめられたはるとは…。自分を変える一步を踏み出す物語。(小中)



『シーリと氷の海の世界の海賊たち』 フリーダ・ニルソン／作
 ・海賊にさらわれた妹を取り戻すため、年老いた父を残して厳しい冬の海へと旅立つ10歳のシーリ。海賊たちとその親玉シロガシラを追って氷海をめぐるなか、シーリは世界の理不尽さにも立ち向かっていき…。冒険ファンタジー。(小上)



『ハミングベアのくる村』 キャサリン・アップルゲイト／作
 ・人づきあい苦手な少女ウィロディーンの大好きな動物サケビーは、村で駆除され、いなくなってしまった。怒りの涙を流すウィロディーンのもとに、突然サケビーの赤ちゃんが現れて…。自然と人間の共存をめぐる物語。(小上)



『アナグマの森へ』 アンソニー・マゴワン／作
 ・ニッキーとケニーの兄弟は村の不良たちに雑木林に呼び出され、野生のアナグマと犬を戦わせるという悪質な遊びに立ちあう。不良たちが去った後、ニッキーが林で見つけたのは…。「荒野にヒバリをさがして」の数年前を描く物語。(小上)



『カトリと霧の国の遺産』 東 曜太郎
 ・19世紀後半のスコットランドの都市、エディンバラ。カトリが働く博物館に、ネブラという誰も知らない謎の街の遺産が多数寄贈される。博物館が特別展で公開すると、それを見た人の中から行方不明者が出て…。(小上、中)



『車いすでジャンプ!』 モニカ・ロー
 ・エミーは、車いすで宙に舞い、大ジャンプをキメるモトクロス選手に憧れている12歳の女の子。モトクロス用の高性能な車いすを買うためにオンラインショップも運営して、売上も上々。夢に向かって着実に進んでいたけれど…。(小上、中)



『ある日、戦争がはじまった』 イエバ・スカリエツカ
 ・2022年2月、少女イエバの人生はロシアのウクライナ侵攻が始まったことで一変した。彼女が暮らすハルキウは攻撃下に置かれ、地下へ避難したイエバは備忘録として日記を書き始めた。「戦争のリアル」を伝える体験記。(小上、中、高、般)

